

更農

発行所
更級農業高等学校
同窓会
長野市篠ノ井布施高田200
発行人
越正至
編集人
松本和裕
印刷所
山野井裕
印刷
中外印刷株式会社

新たな学び「農業」

同窓会長 越 正 至



活動や母校へのご支援を始め、諸活動にご協力を頂き厚く御礼を申し上げます。

さて、1月から始まった

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

日頃は、同窓会活動、支会

ます。このため本会として

「学科改編による新たな学びへ」

学校長 武藤 稜

本校の教育環境整備やクラブ活動等にご支援を賜り、深く御礼申し上げます。



同窓会の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素より

学校行事を少し振り返ると、修学旅行、更農祭、クラスマッチ、そして収穫祭を通して実施することができました。農業科の学習では日々の農業学習に取り組む一

方、善光寺花回廊への参加、小森ナスの信州伝統野菜登録へ向けての取り組み、綿栽培による休耕田の活用を目指す活動、姨捨の棚田の保全活動を通して環境学習等、地域での協働的な学びが行われています。

現在人口減少・少子高齢化社会を迎え、本校がある第4地区においても年々子供が減少しています。そんな中、令和7年度から3学科6コースへ学科改編を実施し、新たな学びをスタートさせることに

なりました。学科改編にあたり、「農業を学ぶ」「農業で学ぶ」「農業に学ぶ」という3つの理念をもとに、新たな学びについて考えました。1つ目の「農業に学ぶ」は、基礎的な農業技術や知識を学ぶとともに、現代の社会変化や技術の進展に対応した持続可能な農業及び関連産業に関する学びを実践する、ということです。2つ目の「農業で学ぶ」は、3学科6コースの農業学習を通して多面的で汎用的な力を身に付け、課題解決



収穫祭

は、子供たちの将来を考えた時、生徒自らの夢に挑戦することが出来る「新たな学び」と、「新たな高校づくり」を目指し、会員を始め関係する皆様方の意見を聞きながら意思統一を図り取り組んでまいります。

今回の県教育委員会が示す「高校再編・整備計画【三次】」は、急激な生徒の減少や社会情勢の大きな変革には、どうしても避けては通れません。将来を見据え、地域農業や産業に主体的・創造的

に貢献できる人材の育成が重要であると考えます。いずれにしても、現在地に新校を設置し、地域とともに共生していくことが、目指すところであります。

また、令和8年に創立120周年を迎えるにあたり、令和6年12月に「創立120周年記念事業実行委員会」設立に向け、準備委員会を設置して取り組みを始めます。周年に相応しい事業となりますようご協力をお願いいたします。

結びに、同窓会員をはじめ、武藤校長先生、教職員の皆様方と一体となつて、これらの歴史的な課題に取り組んでいきたいと思っております。新たな学び「農業」を目指すとともに、更なる更農の発展を願います。

現在、第三次高校再編・整備計画において示された本校農業科・松代高校商業科・屋代南高校家庭科を再編し長野・千曲総合技術新高校（仮称）とする案に基づき、学びのイメージを創るための懇話会が実施されています。農業の学びは、他学科の学びと連携できる幅

の広い学びです。今回新たに考えた上記3つの理念は、新たな学校になったとしても変わることない学びの理念になると考えています。そして長い歴史と伝統を持つ更級農業高校の「産業人として必要な能力を養成し、探求心の高揚につとめる」という素晴らしい教育方針を継承し、未来の子供たちのために、これからの時代にマッチアップした新たな学びを実践していきたいと考えています。

今後とも、同窓生の皆様方のご支援とご協力をよりしく願っています。

農場報告

令和6年度
農場主任 徳武 晃

今年の気候ですが、7月の降水量が多く、8月から10月にかけての降水量は平年よりもやや多くなりました。この雨の降り方は部門によっては作物の生育に大きな影響を与えました。また、気温については、記録的な猛暑が続いた夏でした。特に7月から8月にかけては35度を記録する日が多くあり、我々にとっても植物にとっても厳しい気温となりました。10月の気温が30度にせまる暖かさとなり、降水量の多さともあいまって病害虫の発生を助長する結果となりました。

このような気候の中で、各部門の栽培状況は次のとおりです。

作物部門では、夏場の高温により積算温度に達し、収穫時期も早まりました。収量については平年並みとなりました。

野菜部門の露地栽培は夏場に高温があったものの、降水量があり生育は順調に推移しました。ところが秋の高温により害虫の発生が多く対応をせまられました。また、施設栽培に関しては平年並みの収量となりました。



北信越大会の様子

量となりました。さらに、一昨年度導入された水耕栽培は薬物野菜を中心に順調に栽培を行うことができました。

花部門では、施設内の温度管理に苦勞し、シクラメンでは開花の遅れが見られました。草花の生育自体は良好で多くの方に楽しんでいただいています。

果樹部門では、開花や収穫のタイミングが例年より早まり、夏から秋の高温や天候が不安定になった影響で、果実の日焼けや着色不良、裂果が見られたものの、ほぼ例年並みの収量となりました。

加工部門では、6月の降水量が少なく、7月、8月に雨量があったため加工トマト果実の収穫が順調に進み、その加工品は予定を上回る製造となりました。

また、今年の夏には農業クラブ北信越ブロック大会の事務局校として運営を担当し、大会を立派に開催することができました。地域との連携では、JAグリーン長野との連携による親子ふれあい農業塾、姨捨棚田のオオルリシジミとその食草クララの保護回復活動、地元伝統野菜である小森ナスの栽培と普及活動などを継続し、新たに酒千蔵野との連携による酒米づくりに挑戦しています。その他の活躍も数多くあり、表彰や新聞報道、テレビの取材など今年度も多くの生徒の活躍が見られました。

今後も様々な取り組みを通じて、引き続き地域から必要とされる学校を目指して行きたいと考えています。

現役生徒より

生徒会活動を振り返って

三年三組 加藤 優弥

本年度の生徒会活動は、生徒の意見を積極的に取り入れて活動してきました。新たな挑戦には多くの先生方や生徒の理解と協力が必要だったので、苦難の連続でした。時には意見の食い違いにより、話し合いがなかなか進まないこ

農業クラブ活動を振り返って

三年四組 武田 拓斗

本年度は昨年に引き続き、県連事務局を担当しました。今年度は北信越ブロックを代表する事務局校も担当し、北信越ブロック大会、長野県大会を更級農業高校で準備運営



文化祭ポスター

にに向けて各クラスが創意工夫を重ねて更級祭を盛り上げてくれました。全校生徒の頑張りと生徒会執行部の活躍、大会に参加した出場者が気持ちよく大会に臨める雰囲気を作ってくれた。大会が近づくにつれて、準備など忙しいことばかりで、当日は、トラブル無く進められるか、自分の任された仕事への緊張があり、とても不安でしたが準備ができていた運営生徒や先生方の協力により無事成功することができました。10月に行われた更級祭では、城山動物園からカメラとモルモットをお借りしてふれあい動物園と農業機械を知ってもらおうと思い学校のトラクターとバックホウ、三菱農機さんからお借りしたトラクターの展示を行いました。どちらも地域の方々など多くの方に楽しんでもらえました。

県連事務局と北信越ブロッ

クの事務局の活動を通して、をこの先も活かしていきたい、よ
他県の農業クラブ会長と交流
する機会が多くあり、他県で
の高校の活動や取り組みを知
り、共有することができまし
た。本校にも取り入れること
により、農業クラブの活動の
幅が広がりました。この経験



県大会

優秀賞を受賞して

二年一組 古畠 かなた
私は今年度岩手県で行われ
た、全国学校農業クラブ岩手

大会農業鑑定競技分野果樹に
出場しました。校内での農業

鑑定競技、決戦農鑑を経て全
国大会への出場が決まりまし
た。校内の決戦農鑑は、昨年

度より参加者が多く今年の全
国大会出場への枠に入るのは
難しそうだと思いますが決
戦農鑑の結果、2年連続で全
国大会への出場が決まりまし
た。全国大会へ向けての勉強
方法は、インターネットや教
科書を使用し、実施基準に記
載されている内容の理解を深
めました。大会直前は、学校
に普段より早く登校し、過去
問を解き続けました。昨年度
の熊本大会より、移動時間が
短かったですが移動中も、知
識を詰め込もうと思いスマホ
を使いながらインターネット
で学習しました。移動の疲れ
は感じず、ホテルに無事到着
しました。農業鑑定競技本番
の前日は、緊張しましたが大



全国大会

用紙を渡されると、緊張より
もワクワクの気持ちの方が勝
っていました。自分の回答の
番が回ってきたとき、問題を
見て驚きました。岩手県大会
なのに、「カンキツ類!」昨
年度の熊本大会では地域性の
ある問題が多く取り入れられ
ていましたが、今年度の問題
は分野が果樹に狭まったこと
で問題の傾向も大幅に変わ
り、農業機械の問題がとても
増えていました。私は昨年度
出場の余裕から、機械分野の
勉強を疎かにしてしまってい
たので、機械の問題は難し
く、他の回答で正答率を上げ



全国大会岩手大会

ました。受賞はないだろうと思っていたために、先生に「古畠」と呼ばれ、スマホの画面を見せてもらいました。そこには優秀賞の欄に「古畠かなた」と書かれていました。2年連続で優秀賞を受賞し、とても嬉しかったです。今年度は、昨年度の余裕から大会への気持ち軽く、学習も疎かにしてしまったので、反省点は多いです。大会を通して、任されたことへの責任と学校代表・長野県の代表として重んじる必要があるのだと感じました。来年度も出場者出来るのであれば、この経験を活かしたいと思います。今大会を通じて、とても良い経験ができたと思います。

フラワーアレンジメント競技を通して

三年 山崎 瑛星

私は六月に行われたフラワーアレンジメント競技会の県大会に参加し、優秀賞をいただくことができました。県大会前は一ヶ月間という限られた練習時間の中で、自分のテーマ・デザインをすぐに決めることができず、焦りと不安が大きかったことを覚えています。昨年に引き続き県大会に出場することや、一緒に出場する選手が二年生二人で、後輩を引っばっていく立場だということから、普段感じる

このないプレッシャーで思うようにアレンジメントができない日もありました。しかし、同じコースの仲間やクラスメイト、友達の応援もあり、大会当日は、思い通りの作品を仕上げることができました。表彰式の時、名前を呼ばれた瞬間は本当に嬉しかったです。

全国大会への出場が決まり、今大会の大会テーマは「Imagination」で使用花材は、ムギ 麦わらストローを必ず使用することとした。県大会の時よりも早く、自分のデザインを決めることができました。一回目の練習では自分のやりたいことをやるうとしても全くとまらないうまくいきませんでした。花を無駄なく

きれいに挿すことや自分のイメージしたものを形にするのは難しく、何度練習しても時間がたりがたりせず、落ち込むことも多くありました。本番ではアレンジメン



フラワーアレンジメント

トに加え説明書きや片づけも一時間という限られた時間の中で終わらせなければなりません。大会前最後の練習でも時間内に作ることはできず、不安な気持ちのまま当日をむかえることになりました。大会当日は、たくさんの人からの応援もあり、競技前に緊張はしませんでした。一番大事な軸となる柳の枝が練習のものより細く、無理だとあきらめそうになりましたが、臨機応変に対応でき、最後まで続けることができました。練習のような完成度は出せずやしかったのですが、今まで時間内に完成できなかったことが、本番で全てやりきれたことはとても嬉しかったです。残念ながら入賞することは

できませんでした。大会への出場やそれに向けた練習を通して、アレンジメントの技術だけでなく、自分で考えて行動する力が身につきました。約二カ月の間、指導してくれた講師の方や放課後おそくまで付き合ってくれた先生方、そばで支えてくれた友達や家族には感謝の気持ちでいっぱいです。この体験を通して得たことを、今後の学校生活や進路に活かしていきたいです。

フラワーアレンジメント競技会を運営して

三年 齋藤 菜々星

今年のフラワーアレンジメント競技会は、更級農業高等学校が運営を担当させていただきました。運営は、農業クラブ役員と園芸デザインコースで行いました。私は、園芸デザインコースを専攻しており授業でフラワーアレンジメントについて学びましたが、フラワーアレンジメント競技には参加したことが無かった。そこで、競技の雰囲気やどのような運営を行ったらよいのか分からず不安でした。運営生徒との会議の中で「競技会に来られた全ての方が、この会場に来て良かったと思っていただける運営を目指し、おもてなしの心を大事にしよう」と目標を決めて先生と相談しながら準備を行いました。



フラワーアレンジメント2

前日の会場準備では、机の配置や掃除などを行い、選手が競技を行いやすい環境、到着したときに校舎がきれいであるように競技に臨める環境を作りしました。会場が出来上がると、リハーサルを行いました。何度も当日の流れを確認しました。私は、司会を担当することになったので原稿をいただいた時から何度も読み練習をしました。当日は、受付が終わり準備を始めている選手の方々に、これまでの練習してきた成果を発揮しようという思いと緊張感が伝わってきました。競技中は選手の顔がよく見える場所で行っていたので、真剣に取り組んでいる様子を目の当たりにし、選手の皆さんが成果を出し切れるように、応援する気持ちを込めて進行をしました。競技時間の50分という時間が短く感じてしまうほど引き込まれてしまいました。

私も、アレンジメントを授業で作製しましたが、自分でデザインを考えてイメージ通りの作品に仕上げることは難しかったので、選手の皆さん

は時間が決められている中で、作品を仕上げていて凄いなと思いました。作品公開のときは、どの作品も美しく楽しませてもらいました。

運営を行う中で、不安なことや準備不足がありました。が、おもてなしの心や準備の大切さ、打ち合わせの大切さを学び運営を担当して良かったです。

競技会に参加された選手の皆さん、お疲れ様でした。最優秀賞、優秀賞を受賞された皆さんおめでとうございませう。皆さんの技術や花の魅せ方を身近で見れて、今後のアレンジメントの参考になりました。

今回、本校が競技担当校となり至らぬ点もあったかと思いますが、関係の皆様には感謝しています。ありがとうございました。

県大会意見発表優秀賞

農を求める一人になる

三年二組 宮下 樹生

私の家は農家です。私自身小さい頃から農業を営む親の姿を見続けてきました。農業の大切さを実感することの多かった私は、現在更級農業高校生産技術コースで作物について学習をしています。一農業高校生としての視点から、国土保全について考えていこうと思います。

私は将来、稲作を中心とした農業法人を営みたいと思っています。しかし稲作は単価が安いので大規模な作付けが不可欠です。そこで私は農地の拡大方法として、遊休農地を借り入れ、農地として復活させようと思っています。私はこのことが昔ながらの田園風景を維持する秘訣と感じているとともに、このことが国土保全につながると考えます。なぜ私が遊休農地に目を付けたかというと、実際に私の身の回りに遊休農地が増えているからです。皆さんもどこかで草だらけで管理されていない農地を見たことがあるのではないのでしょうか。なか. なんと今年の田植えシーズンになってわかったことですが、我が家で管理している水田の隣の水田も、今年から作付けをやめてしまいましたが、突然ですが皆さんは長野県



校内発表会

の農業は盛んだと思います。か。長野県はこの冷涼な気候を生かし、果樹などの農業が盛んだと思う人が多いのではないのでしょうか。確かに稲作に関しては、去年は高温障害で一等米比率が10パーセントを下回ってしまった新

潟県に対し、長野県は90パーセント以上を維持し全国1位になるなど、長野県の農業は盛んと言えるでしょう。しかし遊休農地の面積は令和4年の農林水産省の調査によると1万5000ha以上であり、実は全国でもトップクラスの

多さです。他県よりも良い農産物を作る反面、昔ながらの田園風景は失われつつあるのです。

ではなぜ長野県は農業が盛んである一方、遊休農地が多いのでしょうか。まず思いつくのは高齢化や担い手不足ですが、これは全国的な問題であり、長野県だけに言えることではありません。私は大きな理由が二つあると考えます。一つ目は他県に比べ、自給的農業が多いことだと思います。自給的農業とは自家消費を前提とする農業であり、一農家が持つ農地が狭いことが特徴です。また売り上げが発生している果樹などの農地も比較的狭いです。狭い農地というのは経営化する難易度が高く、後継者が現れにくいのです。そして高齢化が進み管理しきれなくなり作付けをやめる。そして果樹園の場合は離農を機に樹木を切ってしまうことが多く、再起がともなうことが多く、再建がともなうことが多くなっています。これらが重なったために遊休農地が多くなったのだと思います。

もう一つが長野県の地理的要因です。皆さんご存じの通り長野県は山がとて多いです。そのため中山間地域の農地が多いのです。私が所属するコースでは、かの有名な姨捨の棚田の景観保護を目的とした活動を行っています。先

日棚田の草刈りをお手伝いさせていたのですが、想像以上に過酷でした。まず圃場まで機械を走らせられるような農道が存在しない圃場がありました。正直これには私自身とても驚きました。刈払い機で草刈りをしましたが、刈払い機を持って歩くことすら大変な場所を通らなければならぬ圃場もありました。

これからの農業は省力化が必須ですが、そのための機械が使えないということや、時代遅れともいえる人海戦術を基とした農業をせざるを得ない状況だと感じました。私はこのような圃場が県内各地にかなり存在するのではないかと感じています。そして、このような管理するだけでも大変な圃場には、法人はおろか跡継ぎが現れることも、とても稀でしょう。

ではこのような圃場をどうやって管理していけばよいのでしょうか。そこで有効と思われる案としてオーナー制度が挙げられます。実際姨捨の棚田はオーナー制度を実施しており、他県のオーナーに農地の貸し出しを行っているそうです。田植えシーズンになると300人ほどの人たちが集まるそうです。これは景観の保全、そして管理者不足を一気に解決できるため、とても有効的な方法だと感じました。

今、日本の農業は転換期にあると感じています。温暖化や消費者が求めるものが変わってきているためです。私はこれからの農場を支える一人になるために、トレンドに敏感になり、様々な環境の変化に後れを取ることなく安定した経営に取り組んでいきたいと思っています。「耕作の継続」なくして、農地の維持と発展、景観の保全はできないと感じています。農業が盛んにおこなわれている長野県に、遊休農地の活用方法を探し、作付けを行いたいと思います。

新年次代議員紹介

年次代議員になつて
年次代議員 杉崎 太一

私は令和6年3月に更級農業高校を卒業し、年次代議員を務めさせていただくことになりました。

在学中は食品科学コースに所属し、主にジャムやケチャップ、味噌などの加工品の製造法や成分の分析について学習をしてきました。また、農業クラブ会長、県連事務局会長として他校や他県の方との

私は令和六年三月に更級農業高校を卒業し、年次代議員を務めさせていただくことになりました。在学中は施設野菜コースに所属し、専門的な

年次代議員になつて
年次代議員 町田 七海

ることで微力ではありますが貢献していこうと思います。精一杯務めていくので、よろしく願います。

そして、活動の中で協調性と先の事を考える行動する力に身につけることができました。

年次代議員として更農の発展に大きく貢献することは難しいですが、積極的に参加す

交流や農作業行事の運営にも取り組んできました。その中で、リーダーとしての立ち振る舞い方やまとめ上げることの大変さや仲間の大切さ、他校や他県の環境の違いを知りました。



善光寺花回路

年次代議員として、長い歴史を持つ更級農業高校の更なる発展に貢献できるよう、最善を尽くします。誠心誠意務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、新型コロナウイルスも落ち着きの兆しがみられ、コロナ禍前の生活に戻りつつあります。後輩の活躍をより一層耳にする機会が増えると思うと、とても喜ばしく思います。

え行動する。その経験を現在の就職先でも生かすことが出ています。高校時代にそのような貴重な経験をさせていただいたことをとても感謝しています。

野菜の栽培や地域の伝統野菜の普及活動を行なってきました。

実際に地域の方と携わり、コミュニケーションの大切さを学ぶことができました。仲間と協力して活動し、自ら考

同窓会事務局より

叙勲褒章

祝意をこめてご紹介申し上げます。

◆瑞宝双光章	大澤 寿雄様 (S48年卒)
◆瑞宝单光章	宮城 欣司様 (S47年卒)

会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は支会活動を通じて、母校並びに同窓会にご支援賜りましてありがとうございます。

本年度の総会は、6月8日にJAGグリーンパレスを会場に行われました。多くの役員の方に出席いただいたなかには20代の年次代議委員の方も多く、先輩方と歓談する姿を見

ることができました。高校再編計画が進む中で、このような世代を超えた交流が続くことを願い、今後も事務局として、会員の皆様に情報発信を行っていきたいと思います。

にご理解いただきますようお願い申し上げます。

結びに同窓会員の皆様には、今後ともご支援・ご協力を頂きますよう事務局からお願いとさせていただきます。

編集後記

通じて配布していただいておりますが、令和6年度総会において、「更農279号」を最後に、各支会配布を終了させていただくこととなりました。令和7年度発刊の「更農280号」から、学校ホームページに掲載いたします。引き続き、学校の様子や同窓会活動の状況もご覧いただきたく、ホームページでの掲載

更農279号が発行でき會員各位にお届けします。年一回の発行ではありませんが、母校と支会、そして会員の皆様との橋渡しになれば幸いです。毎年各支部の支会長様には大変苦勞をいただきながら会員の皆様に届けていただいております。

今後、学校ホームページにおいて校内外における各行

事の様子が随時掲載されていますので、左記のQRコードから学校ホームページにアクセスしていただき、ご利用ください。また、同窓生の皆様のご活躍や地域の情報、学校に対するご意見ご要望がございましたら事務局までお寄せいただき、ますようお願い申し上げます。



総会の様子（6月）

